

後援会会報

Fukui University of Technology 2011 福井工業大学

平成23年9月15日発行

福井工業大学
後援会

43

〒910-8505 福井市学園3丁目6番1号
電話(0776)29-7864
FAX(0776)29-7891
E-mail syomu-u@fukui-ut.ac.jp

2 平成23年度 定期総会 決議事項

8 平成23年度 地区懇談会を終えて

10 【特集】キャリア支援

充実した就職サポートで社会への扉を開く

12 進化する大学 「建築生活環境学科」平成24年度新設

14 大学院工学研究科組織の改編について

16 施設紹介

キャリアセンター

ラーニングコモンズ

学園レストラン「アル・カン・シェル」

17 福井工業大学 奨学金制度

18 2012年度 福井工業大学入試要項

【保護者キャンパス見学会及び懇談会のご案内】

参加お申込期限は9月30日です。【9ページ】



ご挨拶

福井工業大学後援会

会長 川瀬 安史

異常気象のこの夏も、暦が進むに連れ過ぎ易くなつてまいりましたが会員の皆様には如何お過しでしょうか。

冒頭にあたり、先般開催されました平成二十三年度福井工業大学後援会定期総会に於いて役員改選の結果、はからずも会長職をお引き受けする事となりました。もとより、微力な私では御座いますが、皆様方の御協力、お力添えを賜わりまして会長職の責務を果して参りたいと思っております。何卒、宜しくお願い申し上げます。

さて、未曾有の東日本大震災から半年が過ぎ、被災地はもろろんの事、全国的に電力、流通、インフラ、そして、放射能問題等でまだまだ復興には時間がかかりそうです。福井工業大学の学生、六名の御家族が被災されたということで、深くお見舞いを申し上げます。

本年度も後援会では、クラブ・同好会活動の後援、更に就職に関する活動に対し、側面的ではございますが支援を行っております。また後援会活動の基軸となります「地区懇談会」の開催は、五月二十八日の福井

地区を皮切りに六月二十六日まで全国十六会場にて開催させて頂きました。大学からは各学科・専攻の先生方や職員の皆様に、大変お忙しい中を各地に出向いて頂き、親切・丁寧なご懇談に対応頂きました。また、各地区の後援会理事の皆様にも多大なるご協力を頂き、滞りなく全ての地区懇談会を終了する事ができました事を深く感謝し、心から御礼を申し上げます。

この地区懇談会では大学の絶大なご協力を賜り、学業成績（出席・単位修得状況）、就職・大学院進学、学生生活等について、個人別面談に依りて頂いております。この春開催されました地区懇談会の参加状況は、全国で延べ百名を超える先生方にご対応頂き、約二百名（対象学生の数）のご参加がありました。しかしながら決められた日時での開催で、ご都合によりご参加頂けなかった保護者の方も多々おられたかと思えます。

つきましては、本会報にてご案内しております「保護者キャンパス見学会及び懇談会」に、是非ともご参加頂ければ幸いに存じます。当日は大学祭の日程と合わせた企画になつ

ておりますので、ご案内の要綱にそつてお申込み頂きますようお願い申し上げます。

ところで、日本経済は東日本大震災による落ち込みから徐々に回復するも、まだまだ低い状況にあります。更に、海外経済の落ち込みと円高進行により二〇一二年も民間企業の業績に不安を拭い切れません。また、保護者の皆様が一番関心の高い就職状況も益々その厳しさを増しております。しかしこの状況の中、福井工業大学では「キャリアアセンター」を中心に、学生一人ひとりに対し、入学から卒業にいたるまでの一貫したキャリア形成支援や就職支援に全力で取組んで頂いております。その成果として、全国の四年制大学新卒者の就職率を大きく超える九五・二パーセント（平成二十三年三月）の高い実績が挙げられております。ひとえに、先生・職員の方々のご努力の賜物と、保護者の一人として心から感謝申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。ご挨拶と致します。

会員各位

定期総会報告について

五月二十八日午後一時から福井キャンパスに多数の会員の方がご出席くださり、平成二十三年度後援会定期総会が開催されました。その結果を次のとおりご報告致します。

記

- 一、平成二十二年事業経過報告の件
事務局より報告
別記第1のとおり承認
- 二、平成二十二年決算承認の件
事務局より決算報告
監事より監査報告
別記第2のとおり承認
- 三、平成二十三年事業計画及び予算の件
事務局より説明
別記第3及び第4のとおり承認
- 四、平成二十三年役員改選の件
規約第六条により役員選出
別記第5のとおり承認

以上

平成22年度 事業報告

月	主 要 行 事	大学関連行事	主 な ク ラ ブ 活 動
4	後援会会報第40号発行	地区就職開拓 厚生補導 就職指導 学内企業合同説明会 (4/22・23)	
5	後援会役員会 (5/29) 後援会定期総会 (5/29) 特別企画 「保護者向け就職活動セミナー」実施(5/29) 福井地区懇談会 (5/29)	五月祭 (5/17・24) 自己発見レポート活用 ガイダンス	2010日本学生陸上競技距離別グランプリシリーズ選手権大会
6	地区懇談会 (16会場 (6/6～6/27)) 新潟・岐阜・和歌山・山形・滋賀・ 香川・静岡・三重・石川・富山・ 長野・愛知・京都・兵庫・大阪・ 福知山		第59回全日本学生柔道優勝大会 2010日本学生陸上競技距離別グランプリシリーズ選手権大会 第94回日本陸上競技選手権大会
7		人間力要請講座 就職ガイダンス① キャリア形成支援講座 職業興味検査	2010日本学生陸上競技距離別グランプリシリーズ選手権大会
8		インターンシップ企業研修	2010日本学生陸上競技距離別グランプリシリーズ選手権大会
9	後援会会報第41号発行		第79回日本学生陸上競技対校選手権大会
10	保護者キャンパス見学会及び懇談会 後援会役員会 (10/9)	大学祭 (10/10～12) 就職ガイダンス② 産業職業研究セミナー 就職試験対策講座	第58回全日本学生剣道優勝大会 第50回全日本50km 競歩高島大会 平成22年度全日本学生馬術大会 第6回愛知・東海・北陸三連盟王座決定戦
11		就職ガイダンス③ 就職試験対策講座	第63回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学選手権大会
12		就職ガイダンス④ 都市圏就職活動セミナー	第82回全日本学生馬術選手権大会
1		就職ガイダンス⑤	
2		学内企業合同説明会 (2/14.15.16.17.18)	第94回日本陸上競技選手権大会男子・女子20km 競歩大会
3		学位記授与式 (3/15)	第14回日本学生ハーフマラソン選手権大会

平成22年度 収支決算書

平成22年4月1日～平成23年3月31日

福井工業大学後援会

(単位 円)

[収入の部]

項 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
会 費	12,750,000	12,465,000	△ 285,000	
会 費	12,750,000	12,465,000	△ 285,000	@7,500×1,662名
雑 収 入	80,000	93,787	13,787	御酒料・預金利子他
雑 収 入	80,000	93,787	13,787	
繰 越 金	11,858,409	11,858,409	0	
前 年 度 繰 越 金	11,858,409	11,858,409	0	
収 入 合 計	24,688,409	24,417,196	△ 271,213	

[支出の部]

(単位 円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
会 議 費	600,000	556,550	△ 43,450	
会 議 費	600,000	556,550	△ 43,450	定期総会諸経費等
需 要 費	340,000	258,016	△ 81,984	
消 耗 品 費	40,000	13,024	△ 26,976	事務用消耗品
通 信 費	100,000	87,145	△ 12,855	定期総会、役員会等案内発送
印 刷 費	200,000	157,847	△ 42,153	同上案内、資料等印刷代
事 業 費	11,700,000	8,183,027	△ 3,516,973	
厚 生 補 導 費	400,000	352,500	△ 47,500	国際学会費別代、新入生ガイダンスパーティ飲食費
ク ラ ブ 活 動 費	6,000,000	3,335,695	△ 2,664,305	クラブ活動補助等
就 職 指 導 費	500,000	469,620	△ 30,380	
地 区 活 動 費	3,000,000	2,346,017	△ 653,983	地区懇談会諸経費等
創 立 記 念 積 立 金	300,000	300,000	0	創立70周年記念用積立金
会 報 発 行 費	1,500,000	1,379,195	△ 120,850	年2回発行諸経費
慶 弔 費	200,000	65,660	△ 134,340	
慶 弔 費	200,000	65,660	△ 134,340	
旅 費	800,000	610,000	△ 190,000	
旅 費	800,000	610,000	△ 190,000	役員会・学位記授与式等旅費
大 学 祭 補 助 費	700,000	0	△ 700,000	
大 学 祭 補 助 費	700,000	0	△ 700,000	学友会予算内で支出
繰 越 金	10,348,409	14,743,943	4,395,534	
次 年 度 繰 越 金	10,348,409	14,743,943	4,395,534	
支 出 合 計	24,688,409	24,417,196	△ 271,213	

《積立金会計》

(単位 円)

名 称	前 年 度 残 高	今 年 度 積 立 金	今 年 度 取 り 崩 し 額	今 年 度 末 残 高	備 考
創立70周年記念積立金	0	300,000	0	300,000	

上記の収支決算について監査しました結果、適正であることを確認いたしました。

平成 23 年 5 月 9 日

福井工業大学後援会

監 事 織田秀恵 監 事 岡本孝乃助

平成23年度 事業計画

月	主 要 行 事	大学関連行事	主 な ク ラ ブ 活 動
4	後援会会報第42号発行	地区就職開拓 厚生補導 就職指導 インターンシップ概論ガイダンス 学内企業合同説明会（4/21・22） 就職ガイダンス①	2011日本学生陸上競技距離別グランプリシリーズ選手権大会
5	後援会役員会（5/28） 後援会定期総会（5/28） 福井地区懇談会（5/28）	五月祭（5/15・16） 「自己発見レポート」 活用ガイダンス	2011日本学生陸上競技距離別グランプリシリーズ選手権大会 第54回全国空手道選手権大会 第47回東日本大学空手道選手権大会
6	地区懇談会（17会場（6/5～6/26）） 新潟・岐阜・和歌山・山形・滋賀・香川・ 静岡・三重・石川・富山・長野・愛知・ 京都・兵庫・大阪・福知山・東京	就職ガイダンス② 人間力養成講座	第60回全日本学生柔道優勝大会 2011日本学生陸上競技個人選手権大会 平成23年度全日本学生柔道優勝大会
7		就職ガイダンス③ 職業興味検査	第59回全日本学生剣道選手権大会 第55回全日本学生空手道選手権大会並びに東西対抗戦 第54回全国空手道選手権大会 第45回全日本女子学生剣道選手権大会
8		業界研究セミナー インターンシップ企業研修	第47回全日本学生カヌー選手権大会 第59回全日本学生弓道選手権大会 第42回全日本学生弓道遠征選手権大会 第33回全日本大学軟式野球選手権大会
9	後援会会報第43号発行		第9回全日本学生フォーミュラ大会 第36回全日本競歩根上大会 天皇杯サッカー選手権 第87回日本学生選手権水泳競技大会 第80回日本学生陸上競技対校選手権大会
10	保護者キャンパス見学会及び懇談会 後援会役員会（10/9）	大学祭（10/9～11） 就職ガイダンス④ 企業人材養成講座 産業職業研究セミナー 就職試験対策講座	第59回全日本学生剣道優勝大会 第50回全日本50km競歩高島大会 平成23年度日本カヌーフラットウォーターレーシング 選手権大会 第30回全日本学生柔道体重別選手権大会 第42回明治神宮野球大会東海・北陸・愛知大学連盟代表 決定戦 第27回日本ジュニア陸上競技選手権大会
11		キャリア形成支援講座 就職試験対策講座	全日本学生馬術競技大会 第55回全日本大学空手道選手権大会 第12回全日本学生柔道体重別団体優勝大会
12		地区別就職指導会 都市圏就職活動セミナー 就職ガイダンス⑤	第83回全日本学生馬術選手権大会 第63回秩父宮杯全日本大学バレーボール選手権大会 第60回全日本大学サッカー選手権大会
1		就職ガイダンス⑥	第95回日本陸上競技選手権大会男子・女子20km競歩大会
2		学内企業合同説明会	
3		学位記授与式（3/15）	

平成23年度 収支予算書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

福井工業大学後援会

(単位 円)

[収入の部]

項 目	前年度予算額	予 算 額	差 異	備 考
会 費	12,750,000	12,375,000	△ 375,000	
会 費	12,750,000	12,375,000	△ 375,000	@7,500×1650名
雑 収 入	80,000	80,000	0	
雑 収 入	80,000	80,000	0	預金利子、ご酒料等
繰 越 金	11,858,409	14,743,943	2,885,534	
前年度繰越金	11,858,409	14,743,943	2,885,534	
収 入 合 計	24,688,409	27,198,943	2,510,534	

[支出の部]

(単位 円)

項 目	前年度予算額	予 算 額	差 異	備 考
会 議 費	600,000	600,000	0	
会 議 費	600,000	600,000	0	
需 要 費	340,000	340,000	0	
消 耗 品 費	40,000	40,000	0	
通 信 費	100,000	100,000	0	
印 刷 費	200,000	200,000	0	
事 業 費	11,700,000	12,200,000	500,000	
厚 生 補 導 費	400,000	400,000	0	
ク ラ ブ 活 動 費	6,000,000	6,000,000	0	
就 職 支 援 費	500,000	1,000,000	500,000	
地 区 活 動 費	3,000,000	3,000,000	0	
創 立 記 念 積 立 金	300,000	300,000	0	
会 報 発 行 費	1,500,000	1,500,000	0	
慶 弔 費	200,000	200,000	0	
慶 弔 費	200,000	200,000	0	
旅 費	800,000	800,000	0	
旅 費	800,000	800,000	0	
大 学 祭 補 助 費	700,000	700,000	0	
大 学 祭 補 助 費	700,000	700,000	0	
予 備 費	10,348,409	12,358,943	2,010,534	
予 備 費	10,348,409	12,358,943	2,010,534	
支 出 合 計	24,688,409	27,198,943	2,510,534	

《積立金会計》

(単位 円)

名 称	前 年 度 残 高	今 年 度 積 立 金	今年度取り崩し額	今 年 度 末 残 高	備 考
創立70周年記念積立金	300,000	300,000	0	600,000	

平成23年度 福井工業大学後援会役員名簿

会 長 川 瀬 安 史 (福井県)

副 会 長 岡 本 孝乃助 (奈良県)

副 会 長 森 家 英 幸 (福井県)

監 事 織 田 秀 憲 (福井県)

監 事 酒 井 保 典 (福井県)

理 事 黒 島 猛 徳島県

理 事 上野山 広 昭 福井県

理 事 南 雅 志 石川県

理 事 谷 口 長 久 石川県

理 事 石 山 裕 一 福井県

理 事 竹 林 幸 保 滋賀県

理 事 中 山 善 嗣 和歌山県

理 事 中 村 正 幸 愛知県

理 事 清 水 周 三 神奈川県

理 事 金 津 裕 之 福井県

理 事 佐 藤 五 夫 静岡県

理 事 吉 野 信 秀 新潟県

理 事 川 島 勢津夫 福井県

理 事 谷 川 博 也 兵庫県

理 事 加 藤 雄 治 福井県

理 事 松 井 章 江 福井県

理 事 小 澤 伸 佳 愛知県

理 事 小 島 久 雄 滋賀県

理 事 酒 井 明 一 福井県

理 事 野 畑 伸 二 石川県

理 事 畠 中 則 幸 福井県

理 事 宮 本 勝 静岡県

理 事 猪 邊 裕 進 京都府

理 事 北 澤 尚 之 長野県

理 事 村 木 弘 新潟県

理 事 久 川 真 弓 高知県

理 事 山 口 竜 也 福井県

理 事 西 田 晴 彦 大阪府

理 事 望 月 克 人 静岡県

理 事 竹 内 宏 樹 福井県

理 事 栗 林 歩 美 大阪府

理 事 山 本 隆 嗣 福井県

理 事 上 本 啓 介 福井県

(順不同、敬称略)

平成二十二年度 地区懇談会を終えて



本年度の地区懇談会は、五月二十八日の福井会場を皮切りに、六月中全国十五会場にて実施されました。

今年度は二百二名(対象学生の数)と前年を二十五名も上回る保護者の方が参加され各地区とも盛会裏に終了いたしました。

日曜日にもかかわらずご出席いただいた大学の教員の先生方、後援会理事の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

当日は、ご担当の先生から、教育内容や学生生活についての全般的な説明があった後、保護者の方々と各学科の教員との個別面談が実施され、進学や就職等多岐にわたる問題について有意義な懇談の場がもたれました。

この場での要望等に対しましては「すべてを学生のために」をモットーに、大学全教職員の方々が全力で取組んでいただいております。

各地区からの報告書の内容は、下記のようにまとめられます。

- * 学習や就職に対する学生自身の自覚不足を心配されているケースが多く見られました。
- * 学生と保護者の方との日頃のコミュニケーション不足が原因と思われる事例が多く見られました。
- * 就職戦線の激化から、就職活動、求人先情報等についての質問が多くありました。

〈地区懇談会出席者数〉

	出席者数	在学生数	出席率
平成21年度	138人	1,733人	8.0%
平成22年度	177人	1,689人	10.4%
平成23年度	202人	1,677人	12.0%





保護者キャンパス見学会 及び懇談会開催について

ご子息・ご息女の勉学の間や課外活動の練習施設等を見学しませんか？
保護者相互・教職員との親睦・交流の間として、懇談会も開催いたします。
学修状況、就職、学生生活等についてお気軽にご相談下さい。
多数のご出席をお待ちしております。

拝啓 時下、ますますご清栄にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

平素は、本学の教育に対しましてご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、ご子息・ご息女の通われる大学についてより良く知っていただくため、「保護者キャンパス見学会及び懇談会」を本年も大学祭期間中に開催することになりました。

私どもは、より充実した教育や研究を推進するため多くの整備された研究設備や実験室を設置し、また、F.U.T.タワーは授業や就職支援・学習支援・学生生活支援等の拠点として稼働しています。ご子息・ご息女がどのようなところでどのようにして学んでいるのかをご覧いただきたく、是非ご参加くださいますようご案内申し上げます。

なお、当日は個別面談等も予定しておりますので、先般6月に開催しました地区懇談会にご都合等により参加できなかった保護者の方は、是非ともこの機会にご参加いただきたく重ねてご案内申し上げます。

敬 具

平成23年9月吉日

福井工業大学 学 長 城 野 政 弘

福井工業大学後援会 会 長 川 瀬 安 史

当日は大学祭の期間中です。本学学生の活気溢れる姿をご覧ください。

10/9 日
[12:00~16:00]

受付時間は12:00~13:00です。
必ずこの時間内に受付をお済ませ下さい。

12:00~13:00

受 付 見学会、懇談会の順番受付

昼 食 学園レストランにて(当日食事券をお渡しいたします)

13:00~16:00

見学会 学園施設、大学施設・装置設備等のご見学

懇談会 学業、就職、学生生活、大学院進学、カウンセリング等に関するご相談

参加予定及び個人面談をご希望の方は、準備の都合等がありますので、**9月30日(金)まで**に右記にご連絡くださいますようお願いいたします。

【お申込み・連絡先】

福井工業大学 庶務課

TEL.0776-29-7864 FAX.0776-29-7891

E-mail syomu-u@fukui-ut.ac.jp

キャリア支援

充実した就職サポートで
社会への扉を開くキャリアセンター長
島田 幹夫

キャリア教育の推進

近年「キャリア教育」の課題は、社会的にも大きな関心を集めており、全国の大学のみならず、各方面でシンポジウムやフォーラムが開催されております。前回の後援会報（No.42）では、本年四月に新設された「キャリアセンター」の役割について、その概要を紹介させていただきました。今回は、「そもそもキャリア教育とは何か?」「今、なぜキャリア教育が必要なのか?」「本学はキャリア教育をどのように推進しようとしているのか?」など、今一度、保護者の皆様にもその背景を、ご理解頂ければ幸いです。

まず、「キャリア教育とは何か?」です。本来、大学の「教育（教養教育と専門教育）」とは、「キャリア教育」を内包したものでありますが、最近の文部科学省の定義によれば、「望ましい職業観や職業に対する知識・技術を涵養し、自己の個性を理解したうえで、主体的に進路を選択する能力・態度を育成すること」即ち、「自立した社会・職業人の育成」が「キャリア教育」とされています。

次に、「今、なぜキャリア教育が必要なのか?」ということですが、これは「一口で言いますと、これまでの大学教育が、本

来の役割を果たしていないという懸念から来ています。

我が国の「キャリア教育」は、義務教育段階では、既に一九七〇年初頭に始まったとされていますが、今日の経済環境のグローバル化、若者の変容（職業意識の欠如など）と就職難（求人企業と求職学生のミスマッチなど）が、大学の「キャリア教育」を再考させるきっかけにもなっております。一方、少子高齢化時代の今日、企業は、社会的・職業的に自立した人材、変化に対応できる柔軟な思考力と応用力を持ち、行動力ある人材、つまり労働生産性の高い人材を求めています。

そこで、産学的・社会的要請に応える「本学のキャリア教育推進」の状況について申し上げます。「キャリアセンター」では「キャリア教育」を推進するために、以下の重要課題を協議し、実施する方向で鋭意努力しております。①「キャリア教育」の企画（新しい授業科目の導入とカリキュラムの再編）、②キャリアガイダンスを含む各種就業力支援プログラムとインターンシップ制の充実、③学生の実態に即した就職指導・キャリアアカウンセリング、④大学院生のキャリアサポート、⑤既卒者、就職留年生及び研究生などへの就職支援等を実施しております。

本年四月から、就職支援に直結する「キャリア講座」が開講されており、初年次生と二年次生は、それぞれ「キャリア形成教育」と「仕事への意識改革と職業観の醸成」に関するテーマの「キャリア教育」教養講座を受講し、三・四年次生もこれと連動した「キャリア形成支援」講座を受講しています。また、来年度から「キャリア教育科目」を新設することを検討し、本学の「キャリア教育」を更に推し進めます。

しかしながら、「キャリア教育」の目的は、単なる「就職技術（企業はそれを求めています）」を指導することだけではありません。また、「キャリア教育科目」や「キャリアガイダンス」あるいは「キャリアゼミ」などを実施しさえすれば、学生が「自立した社会・職業人」としての「就職力」を身に付けることができるわけでもありません。その目的は、生涯にわたって学び続ける学生の「キャリア形成力」を育むことにあります。あの手この手の「キャリア教育」の実施は、学生の意識変革を促し、これまでの「教養教育と専門教育」を更に充実させていく狙いがあるのです。

ご存知のように、本学は「建学の精神」に沿った「学びの指針」に基づき「創造

力」「人間力」「共生力」の三つの力を備えた「学士力」を身に付けることを目標としています。そして、学生の「キャリア教育」と学生の就職（活動）を支援するために、就職支援課職員と就職指導・キャリアコーディネーター教員が協力・協働、一体となって活動しています。しかし、今後、「キャリア教育」、ひいては本学の「学士課程教育」を実効性のあるものにし、就職氷河期の難局を乗り越えるためには、大学―学生―保護者による三位一体のコミュニケーション・情報の連携こそ不可欠のものです。特に、学生の入学と同時に「学士課程」段階での自己成長過程において、家庭環境など課外での自学自習の習慣が重要であるばかりでなく、日常の保護者の「キャリア形成支援」と就職指導に対する建設的な助言がきわめて重要であることは、調査結果から明らかになっております。

今日のお子さんの置かれた就職環境は、まことに厳しい状況にあると言えます。保護者の皆様からお子さんに「キャリアセンター」を積極的に利用することを奨励して頂くとともに、自立的に就職を選択し、決定できますように、精神的サポートをして頂きたく、ご協力のほど心からお願ひする次第であります。





キャリアセンター (平成二十三年度新設)

キャリアセンター所属の専任スタッフを学科ごとに配置し専用ブースを設けて随時個別相談を実施。就職支援スケジュールに基づききめ細かな指導により、本人の志向や能力に合った企業を紹介します。福井工業大学がもっとも力を入れている特色のひとつとして、学生をトータル的にサポートしております。



1 就職活動サポート体制

学科別、都道府県別に多くの就職担当者がいます。
4年生15人につき1人の担当者を配置

2 個別指導

学科就職担当教員やキャリアコーディネーターが中心となって、学生を個別指導。研究室担当教員もバックアップし、一人ひとりの志望職種や適性を見極めながら、具体的なアドバイスをします。

3 インターンシップ制度

職業適性や将来の目標が、より明確に見えてきます。

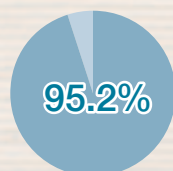
インターンシップとは、企業・団体実務実習のことで、3年生を対象に実施されます。実際に企業・団体内で仕事を体験し、就職に対する意識を育むのと同時に、自らの適性を見極め、進路を明確にする絶好の機会となっています。

(平成16年度からは専門分野選択科目2単位を認定)

4 就職支援活動スケジュール

1年	●新入生キャリアガイダンス ●自己発見レポートの実施 ●自己発見レポート活用ガイダンス ●人間力養成講座
2年	●キャリア形成支援講座 (コミュニケーション・自己表現・文章の書き方・SPI 講座) ●企業人材養成講座 (企業で活躍する本学OBからのアドバイス) ●業界研究セミナー (企業見学)
3年	●インターンシップ概論 (事前教育、就業体験、事後教育) ●就職ガイダンスⅠ「進路・就職について考える」 ●就職ガイダンスⅡ「就職活動 今なにをすべきか」 ●就職ガイダンスⅢ「激変する就職状況」 ●職業興味検査 (潜在的職業興味傾向の把握) ●個別職業希望調査 (学科別) ●就職ガイダンスⅣ「具体的な就活の進め方、就活手帳の説明」 ●産業・職業研究セミナー (企業トップ講演) ●個別企業説明会 (10月～2月) ●就職試験対策講座 (全6セミナー) ●地区別就職指導会 ●就職ガイダンスⅤ「就活直前ビジネスマナー」 ●就職ガイダンスⅥ「学内企業合同説明会の詳細説明」 ●学内企業合同説明会 (2月中旬)
4年	●就職に関する個別指導 ●学内企業合同説明会 (4月中旬)

5 福井工業大学の高い就職率



平成23年3月卒

サンデー毎日 (2011年8月7日発行) の「2011年 学部系統別就職率ランキング」の記事において、福井工業大学が全国の理工系私立大学中、第3位で掲載されました。全国の理工系大学では第11位となっています。

[就職率 = (就職決定者数 ÷ 就職希望者数) × 100]

「建築生活環境学科」平成24年度新設

**建築と土木の技術を結集
安全・快適な生活空間の創造法を
学ぶ学科です。**

近年、頻繁に発生している地震などの自然災害や地球温暖化による環境の変化は、私たちの生活に多大な影響を及ぼします。人が安心して暮らせる生活環境を支える分野のひとつが、建築と土木です。本学科では、住宅や地域、都市を対象に、安全で快適に暮らせる生活環境の創造を目指しています。そのために建築と土木の技術を結集し、各分野で活躍できる幅広い知識と確かな技術を身につけた技術者の養成を目的としています。

1 学科の特色

- 実務経験豊富な多彩な教員陣による研究・教育
- 地域やまちに出て、地域づくりやまちづくりの実践活動
- 建築、土木の幅広い知識・技術を身につけることが可能
- 資格取得への充実した支援

2 取得をすすめる資格

在学中に取得可能な資格

- 高等学校教諭一種免許状（工業）
- 測量士補

在学中に受験可能な資格試験

- 建築施工管理技師（二級学科試験）
- 土木施工管理技師（二級学科試験）
- 造園施工管理技師（二級学科試験）
- 管工事施工管理技師（二級学科試験）
- 福祉住環境コーディネーター（一、二、三級）
- 宅地建物取引主任者
- 技術士補（技術士二次試験）
- 土木学会認定一、二級技術者
- 測量士

卒業後に受験できる資格試験

- 一級建築士
- 二級建築士
- 建築施工管理技師（一、二級）
- 土木施工管理技師（一、二級）
- 造園施工管理技師（一、二級）
- 管工事施工管理技師（一、二級）
- 技術士

3 卒業後の進路、主な就職先

- 国家公務員
- 地方公務員
- 総合建設会社
- 工務店
- ハウスメーカー
- 建築設計事務所
- 文化財修理又は文化財管理関連機関
- 住宅開発会社（ディベロッパー）
- 伝統木造建築関連企業
- 建設コンサルタント
- 防災関連企業
- 環境関連企業
- 大学院進学（博士前期課程・博士後期課程）



魅力的な3コース

建築技術設計コース

現代建築・伝統建築における
快適な住空間をプロデュース！



私たちが日々生活していくためには、建築の存在がかかせません。建築技術設計コースでは、構造や環境・設備、計画など、建築技術の基本を学ぶとともに、基本的な知識を生かしながら課題演習を通して建築の設

計思想やその手法を学び、実務的建築技術者を育成します。また、木造建築に興味関心が強い学生のために、日本の伝統建築に重点を置きながら木造建築の技術を学ぶこともできるカリキュラムとなっています。



生活空間・まちづくりコース

生活空間・まちづくり・都市計画
住みたくなるまち・心に響く
まちを創造



「物語が生まれるトコロ」は、私たちが快適な気持ちにさせてくれます。しかし、このような環境をコーディネートする仕事はもっと創造的です。生活空間・まちづくりコースでは、人間生活の最小空間である住宅から、

まち・都市など広範囲に及び、人の生活空間の創造を目指して、機能面や計画面、安全面などの知識や技術を学ぶとともに、地域づくりやまちづくりの実践活動を通して、豊かな生活空間を創造できる技術者を育成します。



環境防災コース

環境にやさしく、災害に強い、
持続可能な社会環境を創造する。



日本は豊かな自然環境に恵まれていますが、近年、地震や津波、豪雨・豪雪等の自然災害が多発しています。私たちが安心・快適に生活するためには、様々な自然災害に

強い社会・生活空間を創ることが望まれています。環境防災コースでは、地球環境から私たちの周りの身近な環境がどのように成り立ち、そして変化しているのか、また自然災害のメカニズムを知り、自然と共生し、災害に強く人々が安全・安心に暮らせる持続可能な社会の構築に貢献する技術者を育成します。



大学院工学研究科組織の改編について



教務部長

城田 靖彦

平成二十四年度より、大学院工学研究科組織が新しい組織に改編されることになりました。この改編は、学園のアクションプラン60を受けて策定された大学の中期計画の中の一つに沿うものです。改編の趣旨と内容について述べます。

本学では、これまで時代の要請に応じて、学部における新学科の設置や学科組織の改編が行われてまいりました。それに伴い、修士課程五専攻および博士後期課程二専攻からなる現行の大学院工学研究科組織が、学部学科組織と整合しなくなってきました。例えば、学部の原子力技術応用工学科は、大学院では独自の専攻をもたず、研究分野に応じて既設の電気工学専攻、機械工学専攻、あるいは応用理化学専攻のいずれかに所属していました。また、平成二十一年四月に新しく設置されたデザイン学科及び平成二十三年四月に新設された産業ビジネス学科の大学院を学年進行に伴って設置する際に、これらの専攻を既設の工学研究科組織に組み込むことは、教育研究の理念が明確でなくなることが懸念されます。一方、学部の各学科に対応する専攻を

設置することは、工学研究科の入学定員数に照らせば専攻の数が多過ぎることになります。

このようなことから、専攻の教育研究の理念を明確化するとともに、専門領域の知識・技術のみならず広い視野から関連分野や学際的領域の知識と考え方を身につけさせる体系的な教育課程を編成する観点に立つて、現行の専攻の数をスリム化して二専攻とし、それぞれの専攻に博士前期課程と博士後期課程からなる博士課程を置き、各専攻内にコースを設けて学部学科組織と対応する専攻組織に改編されることになりました。すなわち、現行組織における電気工学専攻（修士課程および博士後期課程）、機械工学専攻（修士課程）、および応用理化学専攻（修士課程）および博士後期課程の三専攻をまとめて応用理工学専攻（博士前期課程および博士後期課程）とし、現行組織における建設工学専攻（修士課程）および情報学専攻（修士課程）の二専攻をまとめて社会システム学専攻（博士前期課程および博士後期課程）としました。そして、応用理工学専攻には、基幹工学および先端理工学の分野で柱

となる電気電子情報工学、宇宙情報科学、機械工学、環境生命化学、および原子力技術応用工学の五コース、社会システム学専攻には、安全・安心で持続可能な社会システムの設計・構築・管理運用や望ましい情報社会の構築に関わる土木環境工学、建築学、および経営情報学の三コースを設置し、各コースの専門分野の教育と研究を行うことになりました。入学定員は、現行通り、二専攻合わせて一学年当たり博士前期課程二十五名、博士後期課程六名です。

博士前期課程と博士後期課程からなる課程制大学院制度の趣旨に沿って、人材養成および教育研究上の目的を学則に明示しています。応用理工学専攻および社会システム学専攻における博士前期課程では、「広い視野と高度な専門知識・技術、新しい問題提起とその解決能力を備えた創造性豊かな人材を養成する」ことを目的とし、主として、

高度専門職業人の養成に重点を置いています。応用理工学専攻の博士後期課程では、「基幹あるいは先端理工学分野における目覚ましい科学・技術の進歩に対応できる専門知識と応用能力、研究能力を備えた人材を養成する」ことを

目的とし、主として研究者の養成に重点を置いていきます。同様に、社会システム学専攻の博士後期課程では、「建築や社会基盤の計画・調査・設計・施工・維持管理・プロジェクトマネジメントおよび望ましい情報社会の構築に貢献できる専門知識と応用能力、研究能力を備えた人材を養成する」ことを目的とし、主として研究者の養成に重点を置いていきます。両専攻において、博士前期課程のみで大学院を修了する場合には修士（工学）の学位、博士後期課程を修了する場合には博士（工学）の学位が授与されます。

教育・研究面では、課程制大学院制度の趣旨と本学の人材養成および教育研究上の目的に沿った体系的な教育課程を編成しており、コースワークはこれまでより一層充実し、強化されます。すなわち、大学院博士前期課程における授業科目を、二専攻共通科目、各専攻における全コース共通科目、コース間共通科目、コース専門科目に区分し、広い視野に立つて関連する分野の基礎的素養の涵養を図るとともに、学際領域の知識を基盤として専門的応用能力を培う教育を実施いたします。

国による大学院教育の改革への取組みとして、二〇〇五年九月に中央教育審議会答申「新時代の大学院教育―国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて」が公表され、早速に取り組むべき課題として大学院教育の実質化、すなわち、教育の組織的展開の強化が揚げられました。さらに、二〇二二年一月に中央教育審議会答申「グローバル化社会の大学院教育―世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために」が公表され、大学院教育の実質化の検証とともに、大学院教育の改善の方向性に関して、学位プログラムとしての大学院教育の確立とグローバルに活躍する博士の養成を求めています。本学では、中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」が求めている大学院教育の組織的展開の強化について対応できており、今後は、博士後期課程における教育研究の一層の充実とグローバルに活躍する博士の養成に注力することが望まれます。

知識基盤社会への移行とグローバル化の急速な進展を伴った現代社会においては、高度な専門的知識・技術、応用能力、コミュニケーション能力等を備え、国際的に活躍できる人材が求められており、大学院修了者に対する社会的ニーズは今後ますます高まると考えられます。後援会の皆様におかれましては、大学院への進学についてご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

改編後の工学部学科組織と大学院工学研究科組織との相関図

(平成24年4月実施)





FACILITIES

施設紹介



キャリアセンター

平成23年4月1日 キャリアセンターが新設されました。

大学の就職支援システムをさらに強化する体制を確立したもので、センター長の下、就職支援課、就職支援担当教員、及びキャリアコーディネーターで組織されます。

その目的は、就職率の改善を目指すと共に、「学生のキャリア形成及び就職支援のための事業を企画・立案・推進し、本学の教育に資すると共に、本学学生の社会的および職業的自立を支援すること」にあります。

ラーニングコモンズ

図書館資料を自由に利用して、グループ学習、個人学習、パソコン作業、プレゼンテーションなど幅広い学習活動を行える場所がラーニングコモンズです。

自分の学習スタイルに合わせて、「静」の空間である従来の図書館とこの場所をうまく使い分けてください。

ラーニングコモンズには機能別に次のスペースがあります。

1. コラボレーションスペース
2. プレゼンテーションスペース
3. AV コーナー
4. インフォメーションラウンジ
5. カウンタースペース



学園レストラン「アル・カン・シェル」

大学2号館地下に学園レストラン「アル・カン・シェル」がリニューアルオープンしました。

学生と教職員によるプロジェクトで学生へのアンケートをもとにメニューや設備などを改善しました。

レストラン内は木目調と白を基調にした明るく清潔感のある雰囲気になりました。

料金は500円以内で健康面に配慮してサラダ・スーパバーを設け、メニューにはカロリー表示もしました。今後は期間限定メニューも販売する予定です。また、ソファを配置したカフェスペースもできました。この学園レストランは一般の方にもご利用いただけます。

福井工業大学 奨学金制度

給費奨学金

■特待生奨学金

授業料50%減免

- 対象：工学部2年次以上、大学院全学年
- 条件：工学部 成績 GPA 評価3.8以上
大学院 前学期までの成績GPA評価3.8以上
ただし、修士課程1年生前期は工学部の成績、博士後期課程は修士課程の成績
- 推薦期間：前期・後期（年2回半期ごと）

■準特待生奨学金

授業料20%減免

- 対象：工学部2年次以上、大学院全学年
- 条件：工学部 成績 GPA 評価3.5以上
大学院 前学期までの成績GPA評価3.5以上
ただし、修士課程1年生前期は工学部の成績、博士後期課程は修士課程の成績
- 推薦期間：前期・後期（年2回半期ごと）

■育英奨学金

学納金50%減免

- 対象：工学部2年次以上、大学院全学年
- 条件：経済的理由で修学に困難がある学生
工学部 前学期までの成績 GPA 評価3.0以上
大学院 前学期までの成績 GPA 評価3.0以上
ただし、修士課程1年生前期は工学部の成績、博士後期課程は修士課程の成績

■学生生活奨学金

月3万円支給

- 対象：工学部2年次以上、大学院全学年
- 条件：経済的理由で修学に困難がある学生
工学部 前学期までの成績 GPA 評価2.8以上
大学院 前学期までの成績 GPA 評価2.8以上
ただし、修士課程1年生前期は工学部の成績、博士後期課程は修士課程の成績

■スポーツ特待生奨学金

全国大会において、優秀な成績を修めた者は、授業料の全額または一部を減免するものです。

- 対象：入学予定者及び工学部、大学院全学年

■災害特別奨学金

在学生および本学に入学予定の者で、自然災害等により人的または物的被害を受けた者は、状況により学納金、入学金、入学検定料の全額または一部を減免もしくは災害援助金を支給するものです。

- 対象：入学予定者及び工学部、大学院全学年

■兄弟学費減免奨学金

学納金50%減免

- 対象：本学に兄弟（姉妹を含む）で在籍している場合、最年少にあたる学生で申請をした者

■特別奨励金

困難な資格に挑戦し取得した場合や、指定されたスポーツ大会に入賞した場合に奨励金を支給するものです。

※その他、学外奨学金制度（日本学生支援機構奨学金制度、各自治体奨学金制度など）もあります。

奨学金制度の詳細は、
福井工業大学学務課
(0776-29-7867) まで
お問い合わせください。

●選考方法

AO 入試〔専願制〕	プレゼンテーションを含む面接、調査書
女子学生特別推薦入試〔専願制〕	面接、全体の評定平均値3.5以上
スポーツ・吹奏楽推薦入試〔専願制〕	面接、クラブ実績、調査書
専門学校・総合学科推薦入試〔併願可〕	面接、全体の評定平均値3.0以上
ポートフォリオ推薦入試〔併願可〕 デザイン学科対象	プレゼンテーションを含む面接、調査書、ポートフォリオ【学校生活や自主的な活動により制作した美術・デザイン作品（デッサン、デザイン画、図面、作品の写真など）やデザインに関わる学習の成果を一つの作品集としてファイルし、活動の成果を表現したもの】
一般推薦入試〔併願可〕（自己推薦）	工学適性検査（数学・英語）、面接
一般入試〔併願可〕	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B、物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰ、英語Ⅰ・英語Ⅱの6科目から80分で2科目を試験会場で選択（建築生活環境学科、経営情報学科、産業ビジネス学科は国語総合を追加した7科目から2科目選択／デザイン学科はデッサン、国語総合を追加した8科目から2科目選択）
センター試験利用入試〔併願可〕	受験指定科目12科目（建築生活環境学科・デザイン学科・経営情報学科・産業ビジネス学科は12科目に国語、政治・経済の2科目を追加した14科目）から受験した科目の最高得点科目を200点満点、2番目の高得点科目を100点満点とした合計点（300点満点）

●入学試験会場一覧

試験区分		AO	スポーツ・吹奏楽推薦前期	スポーツ・吹奏楽推薦後期	ポートフォリオ推薦	女子学生特別推薦	専門学校・総合学科推薦	一般推薦前期	一般推薦後期	一般前期	一般中期	一般後期
福井	本学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	敦賀					●	●	●		●		
北陸地区	金沢					●	●	●	●	●	●	●
	七尾					●	●	●		●		
	富山					●	●	●	●	●	●	●
	上越					●	●	●	●	●	●	●
	新潟					●	●	●	●	●	●	●
関東	東京									●		
中部地区	名古屋					●	●	●	●	●	●	●
	松本					●	●	●		●		
	津									●		
	静岡					●	●	●		●		
	浜松									●		
関西地区	和歌山					●	●	●		●		
	彦根					●	●	●		●		
	福知山					●	●	●		●		
	大阪					●	●	●	●	●	●	●
	姫路					●	●	●		●		
山陰・四国	広島					●	●	●		●		
	徳島					●	●	●		●		
会 場 数		1	1	1	1	17	17	17	7	20	7	7

●特待合格制度

本学では特待合格制度を設けており、次の試験区分の合格者のうち対象者は入学金(25万円)が免除されます。

- ・「スポーツ・吹奏楽推薦入試」合格者のうち全国大会出場者（対象大会あり）
- ・「女子学生特別推薦入試」合格者
- ・「ポートフォリオ推薦入試」合格者

●推薦選抜奨学金

①対象入試 女子学生特別推薦入試、専門学校・総合学科推薦入試、一般推薦入試前期、ポートフォリオ推薦入試、非公募制推薦入試（指定校推薦入試など）

②内 容 第1種：授業料半額減免（原則4年間）
第2種：授業料30%減免（原則4年間）

※ただし、第1種・第2種とも毎年度末に学業成績による継続審査あり

③選 考 日 平成23年10月30日(日)

④選 考 対象入試受験者の中で希望者に対し、推薦選抜奨学生選考試験(数学・英語)を実施し、成績上位者より採用

⑤採用人数 第1種：10名を限度
第2種：第1種採用者を除き20名を限度

●一般選抜奨学金

①対象入試 一般入試前期、センター試験利用入試前期

②内 容 第1種：入学金全額と授業料全額を免除（原則4年間）
第2種：入学金全額と学納金半額を減免（原則4年間）

※ただし、第1種・第2種とも毎年度末に学業成績による継続審査あり

③選 考 一般入試前期、センター試験利用入試前期の入試成績上位者より選考

④採用人数 （試験区分ごとに）
第1種：3名を限度
第2種：第1種採用者を除き15名を限度

●資格取得者特別奨学金

専門学校・総合学科推薦入試または一般推薦入試合格者のうち、本学が定める資格を平成24年3月末日までに取得した者に、入学後、入学金相当額を還付。ただし、平成24年4月末日までの申請が必要。

2012年度 工学部入試概要

●入試日程

	試 験 区 分		専属/併願	出願期間（締切日消印有効）	試 験 日	合格発表日	
A O 入 試	A O 入 試		専 願	◆エントリー期間 平成23年 8月 1日（月）～ 9月 2日（金） ◆面談日 平成23年 9月11日（日） ◆出願期間 平成23年 9月12日（月）～ 9月16日（金）	平成23年 9月24日（土）	平成23年 9月30日（金）	
推 薦 入 試	スポーツ・吹奏楽 推薦入試	前 期	専 願	平成23年 9月26日（月）～10月 5日（水）	平成23年 10月14日（金）	平成23年 10月21日（金）	
		後 期		平成24年 1月30日（月）～ 2月17日（金）	平成24年 2月23日（木）	平成24年 3月 2日（金）	
	女子学生特別推薦入試		専 願	平成23年10月 3日（月）～10月21日（金）	平成23年 10月29日（土）	平成23年 11月12日（土）	
	一般推薦入試	前 期	併 願	平成23年10月 3日（月）～10月21日（金）	平成23年 10月29日（土）	平成23年 11月12日（土）	
		後 期		平成23年11月14日（月）～11月25日（金）	平成23年 12月 3日（土）	平成23年 12月 9日（金）	
	専門高校・総合学科推薦入試		併 願	平成23年10月 3日（月）～10月21日（金）	平成23年 10月29日（土）	平成23年 11月12日（土）	
	ポートフォリオ推薦入試		併 願	平成23年10月 3日（月）～10月21日（金）	平成23年 10月30日（日）	平成23年 11月12日（土）	
一 般 入 試・セ ン タ ー 試 験 利 用 入 試	センター試験 利用入試	前 期	併 願	平成24年 1月10日（火）～ 1月30日（月）	本学独自の個 別試験は課し ません。	平成24年 2月10日（金）	
		中 期		平成24年 1月31日（火）～ 2月20日（月）		平成24年 3月 2日（金）	
		後 期		平成24年 2月21日（火）～ 3月22日（木） ※持参の場合は3月23日（金）午前11時まで受付		平成24年 3月27日（火）	
	一 般 入 試	前期①日程	併 願	平成24年 1月10日（火）～ 1月24日（火）	平成24年 2月 1日（水）	平成24年 2月10日（金）	
		前期②日程			平成24年 2月 2日（木）		
		中 期		平成24年 1月30日（月）～ 2月17日（金）	平成24年 2月23日（木）	平成24年 3月 2日（金）	
		後 期		平成24年 2月20日（月）～ 3月 5日（月）	平成24年 3月13日（火）	平成24年 3月23日（金）	
	編 入 学	編入学前期			平成23年 9月 5日（月）～ 9月15日（木）	平成23年 9月24日（土）	平成23年 9月30日（金）
編入学後期			平成24年 1月30日（月）～ 2月10日（金）	平成24年 2月21日（火）	平成24年 3月 2日（金）		
社 会 人	社会人				平成23年11月14日（月）～ 11月25日（金）	平成23年 12月 3日（土）	平成23年 12月 9日（金）

●募集定員

学 科	募集定員	コ ー ス
電 気 電 子 情 報 工 学 科	90	電気エネルギーシステム、電子材料・デバイス、コンピュータ情報システム・宇宙情報 [コース選択2年次]
機 械 工 学 科	100	機械システム、自動車システム、ロボット開発 [コース選択2年次]
建 築 生 活 環 境 学 科	65	建築技術設計、生活空間・まちづくり、環境防災 [コース選択2年次]
デ ザ イ ン 学 科	60	住環境デザイン、プロダクトデザイン、メディアデザイン [コース選択2年次]
経 営 情 報 学 科	65	経営システム、情報システム [コース選択2年次]
産 業 ビ ジ ネ ス 学 科	50	地域共生ビジネス工学、スポーツビジネス工学 [コース選択2年次]
環 境 生 命 化 学 科	45	物質化学、生命化学 [コース選択2年次]
原子力技術応用工学科	25	

すべてを学生のために

最先端の設備を備え、最先端工学を学ぶステージ。

それぞれの能力・適性・興味に応じて

一人ひとりの人生の可能性を限りなく拡げます。

福井工業大学

Fukui University of Technology